



①つるし雛は、婦人会による手作り。一つひとつ丁寧に作られています。  
②今年の新作の一つ。「重陽の節句」をテーマに作成したもの。③こちらも新作のアマビエ

## ▶▶INTERVIEW 2年分の思いを 届けたい

### ひなまつりの始まり

ひなまつりが始まったのは、今から17年前の2004年。婦人会の手芸教室でのつるし雛作りがきっかけでした。「最初は、自分たちが楽しむために作ったのですが、せっかくだから皆さんに見てもらいたいと思っただけです。」と話するのは、婦人会長の遠藤敦子さん。「ひなまつりは最初の2年間、あじさい公園の舞台棟で2日間の開催でした。雪が降った日もあり、その光景をよく覚えています。」

### 年に一度のコミュニケーションの場

その後、2006年に現在の会場である瀬戸屋敷に場所を移しました。ひなまつりの規模も段々と大きくなり、婦人会による手作りのつるし雛も約1万個に。近年では、メディアに取り上げられることも増えました。「たくさんのお客さんが見に来てくれて、嬉しかったですね。あと、毎年来てくれる常連さんもあります。名前もどこに住んでいるのかも知らないけれど、年に一度ひなまつりの時にだけ会えるのよ、「元気になりましたか?」なんてお話しして…。ひなまつりが、コミュニケーションの場になっているの。」

つるし雛を作っているだけではなく、ひなまつり期間中、お客さんの案内やお茶のサービスをしている婦人会の皆さん。圧巻のつるし雛が見られることはもちろん、婦人会のおもてなしも魅力のひなまつり。町内外から訪れる来場者の中にも、婦人会の皆さんとの触れ合いを楽しみにしている人も少なくありません。



▲目玉である2.7mもある大つるし雛も手作り

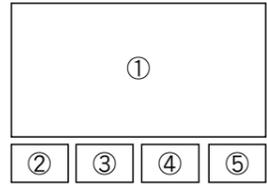
来年は2年分の思いを込めて「ひなまつりが中止になってしまっただけです。でも、悲しんでいるだけではないかなと思うの。今年、中止が決まって、改めてこのイベントの大切さを実感しました。町内外の方が期待してくれていて、私たち自身もやりがいがある…。絶えさせてはいけなないイベントだと思っています。来年は、2年分の思いを込めて、パワーアップしたひなまつりにするわ。」と今後の意気込みを話してくれました。

開成町婦人会長  
えんどう  
**遠藤 敦子**さん



特集 開成町瀬戸屋敷ひなまつり

# 来年こそは



①婦人会の皆さんと約2.7mの大つるし雛 ②手作りの巾着雛  
③つるし雛に子どもも興味津々  
④思わず笑顔になるお客さんとの交流 ⑤非常に貴重な約300年前の享保雛

**中止が決まったひなまつり**  
毎年、8千人以上が訪れる開成町瀬戸屋敷ひなまつり(以下、ひなまつり)。町を代表するイベントの一つとなっています。

ひなまつりの中心となって活躍する開成町婦人会(以下、婦人会)の皆さんは「今年も多くの方が楽しみにしているはず」と開催に向けて準備してききましたが、残念ながら、ひなまつりは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。

今月号では、昨年のひなまつりの写真とともに、婦人会長のインタビュー、婦人会の皆さんによるつるし雛の解説をお届けします。ぜひ、紙面でひなまつりをお楽しみください。